

三澤教育委員長

学校週5日制が定着する中で、多くの子どもたちは、学校・家庭・地域の中でさまざまな活動を行っている。土曜授業を実施することで充実した土曜日を過ごしている子どもたちにとっては生活スタイルに支障がでることが懸念される。また、教員の勤務体制の調整等の課題もあり、現時点では実施する考えは持っていない。今後、土曜授業の実施を検討する場合は、導入についての基本的な考えを明らかにし、学校や保護者の理解を得るとともに、子どもたちにとって最も良い方法を考えていきたい。

清水高校の
振興について

中島里司 議員

地元の高校として、魅力ある学校づくりを教育委

員会内部で検討したことがあるか、特に次の2点について伺う。

①平成17年に食育基本法が施行された。町教委の「教育の四季」にも食の大切さが記されている。高校教育においてもそれは欠かせない教育である。校内に売店又は生徒の昼食について対策を講じる必要があると思うが考えを伺う。

②生徒の進路を考えたと、大学との連携を広げることが望ましいと思うが考えを伺う。

三澤教育委員長

①高校に確認したところ、



町外から通学する生徒が多い清水高校。

平成16年頃から売店がない状況である。魅力ある学校づくりの要素としての売店の必要性について、高校の主体性を尊重しながら話し合っていきたい。

売店が難しいのであれば事前に注文を取って届けるといった方法もあるという提案も受けたので、高校の考えを聞きながら協力できることはしていきたい。

②現在、清水高校と酪農学園大学との間で高大連携を行っているが、管内の大学とも連携できればと思うので、機会があれば学校と話し合い、考えを聞きながら、進めていくことができればと考えている。

役場の
組織について

中島里司 議員

職員の職務に対する意識が低いと感じることが

ある。その原因の一つに組織があるのではないかと。現在の組織になつたとき課を統合し、参事職が設けられ、その後、退職課長の後任に参事職をあてて減らすとの説明があつたが、専門的な部署は別として、責任の曖昧さが事務処理に時間がかかる要因と思われる。

大がかりとは言わないが、部分的に課として分立する必要があるのではないかと。検証し検討する考えを伺う。

高薄町長

職員が減少していく中で、関連する事業の統一化を図るために大課制を用い、平成17年に行政改革の10か年計画を立てるに当たり、試行的にグループ制を導入した。その後、大きな成果が見受けられなく現在の状況になっている。参事職を減らす予定であつたが、地方分権一括法による権限移譲等により事務の煩雑化も踏まえて

減らせなかつた状況にある。組織のあり方について、平成26年度に抜本的な見直しを行い、平成27年度の実行を目指している。

ピロリ菌の
早期発見、除菌で
胃がんの撲滅を

佐藤幸一 議員

①本町の胃がん検診の受診者数は何名か。また、これから町としての対策を伺う。

②胃がんの原因としてピロリ菌があげられるが、ピロリ菌の感染有無の早期発見に「胃がんリスク検診」を導入してはいかがか。

高薄町長

①平成24年度、40歳以上の国民健康保険加入者2874人を対象に実施し、676人が受診しており、受診率は23.5%と少ない状況にある。肺・大腸がん検診と同様に胃がん検診も継続していく予定である。

消費税
引き上げ後の
対策について

佐藤幸一 議員

4月から消費税が増税されることにより、ますま

②胃がんリスク検診は血液検査によりピロリ菌感染の有無と胃粘膜萎縮の程度を測定し、胃がんにかかりやすい状況であるかを検査するものである。検査結果によって、1年に一回、2・3年に一回などの継続した検査が必要となる。しかし、この検査は胃がんを直接発見できる検査ではないと言われており、集団を対象とした検診としては推奨されておらず、個人を対象とした任意検診として十勝管内では一部の医療機関でしか実施されていない。胃がんの早期発見については、医療機関と十分検討していきたい。